

**2025 年度
AO 入試 〈I 期〉
2024 年 10 月 13 日実施分**

問題と解答

国語

国語

I 次の文章を読んで、後の問い（問1～7）に答えなさい。

人口規模が縮小し、人口密度が低下するにつれ、自然環境との関係を再編することが必要となる。すでに過疎地域や都市周辺部あるいは大都市内でも、人口の希薄化にともない、生態学的なバランスが崩れ、野生動物の異常はんシヨクや人間の生活圏への侵入が起きている。

人口減少により生態環境からの一方的な撤退がなされた場合、生態環境がヒトとのせつシヨク^①がなかった頃のバランスを回復する可能性は極めて低い。というのも先進国の森林の大部分はすでに原生林ではないし、ヒトとのせつシヨク^①がなかった時代はるか昔のことである。今日では貴重なものとなった里山の自然もヒトとの共生関係から生まれたものであり、熊や鹿、狐や狸、猪や猿などの大型野生動物の個体数も、ヒトとのせつシヨク^①やヒトの森林利用との関係で決まっている。むしろ人の生活圏が脱落することにより、自然環境のバランスは崩れ急速に荒廃が進む。また荒廃した自然環境では気候変動や異常気象に対する

① が一層高まると予想される。少子高齢・人口減少による林業・農業・牧畜生産の急速な衰退、生産地の粗放化による生態環境の崩壊が懸念される。

さらに、より長期にグローバルなレベルで自然環境の悪化を考えると、イスラエルの歴史学者ユヴァル・ノア・ハラリが『サピエンス全史——文明の構造と人類の幸福』の中で主張しているように、人類が小麦や米などの特定の穀物種や、牛・豚・鶏などの家畜動物のみを異常はんシヨク^⑦させたことにより、生物多様性をソがいし^⑦、地球上の自然生態環境そのものを破壊してきたという問題がある。

人口減少が、この問題の解決に直接貢献するかといえば、答えはノーであり、世界人口が現在の80億人から40億人に減ったとしても、現在の食料生産方式のままでは生物多様性の減少を止めることはできない。また人口減少が進めば、世界の食料問題が解決に向かうかといえ、やはり答えはノーである。その理由は、世界人口が人口爆発にも耐え、これまで増加してきたのは、人口増加より早いスピードで食料生産を増加してきたからであり、それを可能としたのは、特定の穀物種や牛・豚・鶏などの家畜動物の生産方式を巨大化したからである。人口減少が進めば生産効率は低下するので、むしろ食料事情は悪化すると考えなければならぬ。すでに開発途上国の一部で起きているように食料事情が悪化すれば原始的な焼畑農業への退行や野生生物の乱獲などが進み、生物多様性はさらに低下する。また経済的に豊かにならないと人口は減少しないが、経済的に豊かになれば、1人あたりの消費水準が上がり、食料の消費量は増えるので、全体としては、人口減少の効果は相殺されると考えてよい。

国連が主導して進められている「持続可能な開発目標」SDGs (Sustainable Development Goals) では、二つ目の目標（飢餓をゼロに）で食料安全保障や栄養改善、持続可能な農業の促進などで食料問題が扱われているが、食料生産による生物多様性の減少という点について、環境負荷を大きく低下させる効果は期待できない。同様にフードロス（生産されたものの最終消費に至らず廃棄される食料）^①ボクめつや、カロリー過多の食習慣を止めさせる健康キャンペーン、肉食をタブーとする菜食主義やさらに先鋭化したヴィーガン（菜食に加え、動物由来の服や生活用品も全て拒否する）など、文化的、社会的には重要かつ貴重な取り組みだと思うが、自然環境をベースとする食料生産である限り、人類による食料生産が生物多様性に影響することは避けられない。ちなみに穀物生産についていえば、ローマクラブ報告『成長の限界』（1972）で使われたWorld3というモデルでは、耕作可能な農耕地の寿命は6千年と設定されていたが、20年後の『限界を超えて』（1992）のWorld3/91では千年に短縮されていて土壌の悪化（風化・侵食・土壌流出）はその後も加速していると思われる。いずれアメリカやウクライナの穀倉地帯の農耕地が使えなくなる日があることは避けられないと考えるべきだろう。

したがって、時間は掛かるが、この問題を根本的に解決するには、最終的に食料生産を自然生態系から分離するしかない。具

体的には、すでに開発が進められ一部で商品化され始めているように合成タンパクなどの技術を使い、シンセティック・フード（合成食品）を生産する方向に進化し、その生産設備を自然生態系の食物連鎖（フードチェーン）から空間的に隔離することになる。このような生産設備がどれくらいの大きさになるかは定かではないが必要面積が農耕地や牧草地よりはるかに少なくなることは間違いない。大都市周辺部や大都市の内部に設置することも可能だと思う。もっとも、すでに述べたように、このようなことが可能となったとしても、生態環境からの一方的撤退がなされた場合、生態環境が元のバランスを回復する可能性は低いので、^⑧人類抜き^⑧の生態環境をどう管理するのかという問題にも並行して取り組む必要がある。

地球温暖化については、2015年の「国連気候変動枠組条約ティヤク国会議（COP）」で合意された「パリ協定」が翌年から発効し、全体目標として世界の平均気温上昇を^⑨ii 革命以前と比べて2度より低く保ち1・5度に抑える努力をするこ
とになった。そのため世界各国はCO₂を含む温室効果ガス（Greenhouse Gas, GHG）の排出量の削減目標を掲げている。日本
は2021年4月の「気候変動サミット」で当時の菅総理大臣が2030年までにはGHG排出量を2013年度水準から46%
削減すると宣言したといわれている。

現在、進行している地球温暖化が^⑩ii 革命以来進んできた化石燃料の消費により排出されるCO₂を増加させ、その大気
中の濃度を高めた温室効果の結果として、地球の年間平均気温を上昇させているという仮説（相関関係はあるが量的因果関係
はイゼン不明^⑪）は、今や自明とされている。仮に仮説が正しいとしてもCO₂を含む温室効果ガスの人為的排出量を削減すれば、
その分だけ地球の年間平均気温の上昇が抑えられるとは限らない。地球大気にそのように敏感な可変性があるのなら、コロナで
^⑫ii 活動が大幅に低下した二、三年の効果がすぐに出るはずだが、今のところ確認されていない。しかし、温暖化が続いて
いることや巨大台風や竜巻、記録的猛暑や寒波など異常気象とされる現象が多発していることは経験的事実である。また、大震
災や大津波などの巨大災害も頻発しているとの印象も強い。

（原 俊彦「サピエンス減少」を一部改変した）

問
1

大線部ア～カの熟語のカタカナで表記された部分に使用する漢字を、次の各群の1～5のうちから、それぞれ一つずつ選
びなさい。

㊦
ボクめつ
④
5 4 3 2 1
墨 牧 撲 木 僕

㊦
はんシヨク
①
5 4 3 2 1
埴 殖 食 植 触

㊦
テイやく
⑤
5 4 3 2 1
体 提 帝 締 定

㊦
せつシヨク
②
5 4 3 2 1
食 色 埴 拭 触

㊦
イぜん
⑥
5 4 3 2 1
依 為 衣 位 以

㊦
ソがい
③
5 4 3 2 1
租 阻 祖 訴 疎

問2 傍線部③と④の文中における意味を、次の各群の1～5のうちから、それぞれ一つずつ選びなさい。

③ 生産地の粗放化

⑦

- | | |
|---|--------------------|
| 1 | 農地などをほったらかしにすること |
| 2 | 工場を管理しないまま放置すること |
| 3 | 農業などを自然の力に頼って営むこと |
| 4 | 使いきれない農地を有効に活用すること |
| 5 | 農地を自然の力のみで活用すること |

④ 人為的排出量

⑧

- | | |
|---|--------------------|
| 1 | 人間が意図的にもたらした排出量 |
| 2 | 人間が意図せずにもたらした排出量 |
| 3 | 人間の活動がもたらした排出量 |
| 4 | テクノロジーにより生み出された排出量 |
| 5 | 生命の活動がもたらした排出量 |

問3 空欄①に入れるのに最も適当なものを、次の1～5のうちから一つ選びなさい。

⑨

1 刹那性

2 虚弱性

3 無常性

4 弱体性

5 脆弱性

問4 空欄⑩に入れるのに最も適当なものを、次の1～5のうちから一つ選びなさい。

⑩

- 1 農業
- 2 産業
- 3 デジタル
- 4 情報
- 5 フランス

問5

波線部⑪「食料問題」とあるが、こうした問題の解決策として筆者はどのようなことを提案しているか。最も適当なものを、次の1～5のうちから一つ選びなさい。

⑪

- 1 生産設備をフードチェーンに組み入れること
- 2 食料生産と自然生態系とを共生させること
- 3 食料の生産設備の効率化をはかること
- 4 加工食品を生産する方向に進化すること
- 5 食料生産を自然生態系から隔離すること

問6

波線部⑧「人類抜き of 生態環境」とあるが、それはどういふ意味か。その説明として最も適当なものを、次の1～5のうちから一つ選びなさい。

ちから一つ選びなさい。

⑫

- 1 観光客がいなくなった生態環境
- 2 人の痕跡がなくなった生態環境
- 3 農家や酪農家がいなくなった生態環境
- 4 人の生活圏がなくなった生態環境
- 5 人間という種が滅亡した後の生態環境

問7

本文に合致する内容として、最も適当なものを、次の1～5のうちから一つ選びなさい。

⑬

- 1 いまの食料生産方式のままでは環境に悪影響を及ぼす
- 2 人口減少が進めば、世界の食料問題は解決する
- 3 経済的に豊かになると人口は減少し、食料問題は解決する
- 4 菜食主義やヴィーガンの生活スタイルは環境にやさしい
- 5 人間は生態環境へできるだけ干渉しないほうがよい

Ⅱ 後の問い（問1と問2）に答えなさい。

問1 次の四字熟語①と②の空欄に入れる漢字を、次の各群の1～5のうちから、それぞれ一つずつ選びなさい。

意
味

①
牛 飲 □ 食
①④

5 4 3 2 1
牛 虎 鳥 馬 猫

大いに飲み食いをする事

②
一 知 半 □
①⑤

5 4 3 2 1
観 考 当 解 諾

少ししか知らない、いい加減な知識のこと

問2 次の慣用句①と②の意味として最も適当なものを、次の各群の1～5のうちから、それぞれ一つずつ選びなさい。

① 肝胆を砕く

①6

- 1 とても驚くこと
- 2 勇気をだして事態を打開すること
- 3 持てる知恵をすべて傾け苦心すること
- 4 相手の急所をつくこと
- 5 恨みをはらす計画を練ること

② 木で鼻をくくる

①7

- 1 冷たい態度や無関心な態度を示すこと
- 2 鼻先であしらうこと
- 3 全く取り合わずはねつけること
- 4 相手に苦痛を与えて復讐いっせすること
- 5 矛盾しており理解できないこと

〔国語問題終了〕

2025年度 AO入試＜I期＞解答 10月13日実施分

国語		
解答番号	解答	配点
①	4	2
②	1	2
③	4	2
④	3	2
⑤	2	2
⑥	5	2
⑦	1	3
⑧	3	3
⑨	5	4
⑩	2	5
⑪	5	5
⑫	4	5
⑬	1	5
⑭	2	2
⑮	2	2
⑯	3	2
⑰	1	2